

低投入型農業のための生物農薬等新資材 及びその利用技術の開発

(独)農業環境技術研究所、東北大学、東京農工大学、岐阜大学、九州大学、
山形県農業総合センター、埼玉県農林総合研究センター、
奈良県農業総合センター、兵庫県農林水産技術総合センター

石油由来資源の使用を削減した低投入型農業の実現に貢献するために、経済的被害が大きいナス科野菜の土壌病害を抑制する実用的な微生物農薬に結びつく新資材及びその管理・制御技術を開発しています。

1 微生物農薬とは？

- ・植物病害の防除の実現のために開発された微生物製剤で、現在25剤が登録・販売されています。
- ・総合的病害管理技術(IPM)の推進に貢献し、今後より一層の普及が期待されています。
- ・土壌病害に対する開発が遅れています(防除が困難なため)。

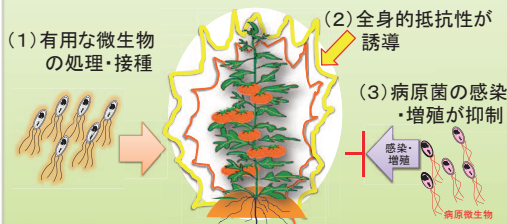
2 研究開発のコンセプト、戦略

① 経済的被害が大きい
ナス科野菜の土壌病害
を対象に開発します。



青枯病 (細菌病) 萎凋病 (糸状菌病) 根腐萎凋病 (糸状菌病)

② 植物の病害抵抗性を高める
微生物を選抜します。
(土壌病害に対して安定した効果が期待)



③ 生産コストを意識した開発を目指します。
(資材開発には重要)

⇒バチルス属細菌等が有望

④ 微生物の効果の出る
場面、出ない場面を明らかにします。
(効果の信頼性、利用普及に必要)

3 研究の体制・連携

